



進路通信

宮城県立聴覚支援学校
令和4年1月20日発行
第20号 進路指導部



2022年のスタートです！…晴れの門出の日を目指して

今年度第2号目の進路通信をお届けします。今年度も、昨年度同様、新型コロナウイルス感染症予防に配慮しながら、各部で下記の行事を開催しましたので、ご紹介します。

さて、今年度の進路決定状況は、1月15日現在で、民間企業への就職内定が4名、大学合格が1名となっています。最終学年の生徒達は、今後も引き続き、採用試験や公務員試験、入学試験、職場実習等を予定しています。寒さの厳しい折、感染症予防に努めながら、体調管理に努め、実力を発揮してほしいと思います。今年度卒業生の進路に関する詳細は、年度末にお伝えします。

ようちぶ講座（進路編） 9/14（火）

保護者対象に9時40分から10時20分の時間帯で行いました。昨年度は多数の保護者の皆さんにご参加をいただきましたが、今年度は、数名の参加者でこじんまりとした形で行いました。幼児たちが「社会人」になるのはまだまだ先の話です。しかし、現在の本校の進路状況や進路活動の実際を知っていただくことで、「今、すべきこと」が少しくクリアになったり、今後の見通しがもてたりするはずと考えました。「本校と普通校の進路指導は何が違うの?」「障害者雇用とは?」というようなお話もさせていただきました。毎年、内容をアップデートしていきますので、再び多数の皆さんのご参加をお待ちしています。また、内容についてのリクエストもお寄せいただければ、できる限り対応していきます。



進路講演会 10/29（金）

5, 6時間目に進路指導充実事業として行いました。講師は平成30年度卒業生の佐々木千奈実さんと、就労先の上司の安達裕哉さんでした。佐々木さんの発表部分では、パーソルチャレンジ株式会社に就労して3年目を迎え、これまで苦労したことや達成感を感じたことなどを、手話と口話、そしていきいきとした表情で語ってくれました。安達さんの発表部分では、社会で働くために必要な力について、優しい口調ではありましたが、とても現実的なお話をしてくださいました。参加した専攻科、高等部、中学部の生徒達は、メモを取りながら真剣なまなざしで講演を聞いていました。事後学習の感想文からは、「コミュニケーションで苦労しながらも、今ではコミュニケーションが楽しいと言っていた先輩はすごい。」という声が多くありました。実際に社会で働いている先輩の経験談は在校生の心に深く突き刺さったようです。このような企画を、今後も生徒達に届けたいと考えています。



当日は、本校卒業生の2名の先輩の仕事をしている様子を見学させていただきました。齋藤和樹先輩には、直接お話をうかがい、たくさんの質問に答えていただくことができました。「働くこと」について考えることのできた、とても充実した職場見学になりました。



小学部では、冬季休業前の授業参観、学部・学級懇談に合わせて、４年生以上の保護者を対象に進路研修会を行いました。菅原進路指導部長を講師に迎え、本校の進路の現状や進路に関わる情報を保護者の皆様に知っていただくことができました。３０分という短い時間でしたが、昨年度の進路状況や在校生の進路活動に始まり、本校の就職・進学・福祉サービスの現状、障害基礎年金についてと、保護者のニーズに応じた充実した内容で、大変好評でした。

